平新報

發行日毎月三回 五ノ日發行
編輯兼發行印刷人 山野邊庄吉
發行所 福島縣平町二丁目二番地 平新報社
廣告料五號十二字詰 一行一回五十錢 場所指定倍增
一部定價金十錢送料五厘

皮膚の強練法（長壽の秘訣）

（寒冒及中症の豫防）

湯本町 片岡鎌三郎

昔七十歳を古稀けれども今日では九十歳餘を理想とする十五歳迄を人生の樂園三十六を絶頂四十五歳から破壞期故三十五六から合理的攝生と精神的修養が大切だ古來修養者に長壽者が多い無理をした者と大飯喰と肉食者と惡人に長生は無い破壞期後斷じて無理は不可である

肉食

三十五六迄は結構だ肉食動物に結核は無いが肉には刺戟物質が含まれてるから神經過敏不眠不安頭痛ヒステリー神經衰弱症には不適當だ肉は神經興奮作用植物性食は沈靜海は興奮山は沈靜故に肉と沈衰してる者や遲鈍性性慾高進の目的食思を進めるには宜敷いが一面疲勞し易い体質となり血管疲勞し易く硬化性血壓亢進次て腦出血の原因を誘發する海水浴も同一理で興奮性過敏不安不眠ヒステリー神經衰弱者に適しない之を知らずに失敗する者が多い肺病の海岸轉地も一面結構の樣だが同時結核菌の活動を促進するから失敗する篤と顧慮すべき問題だ壯年期迄肥る氣味に破壞期後は瘦る氣味に持つべきだ

肥胖とルイ瘦の目標

左肩胛下角より二三仙迷内下方で皮膚施緩を計る一寸は常態一寸三分約五百匁減一寸五分一貫目二寸約二貫目二寸三分約三貫目二寸五分四貫目三寸は半減である大凡の目標として誤ない假に一貫目減の人は丈夫で健康度低下だから脚が冷る便通秘結不眠不安焦燥等過敏性となり夫れが怒りボク憂鬱煩悶家庭不和等人生冷かになるは當然だ斯る人は原因を除き健康度を向上させなければ百藥も一時的に過ぎない

肥らせるには

如何にかして一日の食量三分の一を增加せしむれば一年の終迄に一貫四五百目增加する之を目標とする

寒冒の豫防

皮膚强練を怠ると皮膚呼吸防げられ收縮擴張（血管）が變調する夫れが寒冒だ溫浴後冷水を浴る即暖めた後冷す皮膚血管擴張せしめ後收縮せしむる練習となり朝の冷水摩擦と同一理で起床直後でなければ却て害がある之が水治療法である之を局所的には脚の冷る腰が痛む關節病凍傷月經痛逆上頭痛不眠夜尿症肩僻等に十二分に脚浴後冷濕布纏絡其上を叩打マサツを手早くした後乾た溫めた、たおるで拂ふと非常に爽快を感じ血行を能くして効果確實にある但三歳未滿有生者强度の貧血虛弱者には適しない此の强練法を繼續すれば皮膚呼吸血管の縮、擴張習ー腎臟負擔輕減し萎縮腎を豫防するから血壓上進を防ぎ中症の豫防となるから長生亭樂の基である而て九十歳餘の自然壽命何等苦痛なく大往生の理想に達するを得ん食物の攝生は後で說くとして凡て容易な事には中々眞理があるいろは四十八は小供も知つてるが涅槃經雪山童子の四句の偈文から出で（諸行無常是生滅法生滅々已寂滅爲樂）体讀し得た者は金剛座に入るを得と弘法大師は敎へてある序に法は軌持也脫線せぬ樣に

國民的自覺

日光生

◆銀行休業！の大洪水は如何に大被害を出したか想像以上との事だ、裏長屋にて血と汗により粒々辛苦の零砕なる財物を無慘にも一夜にしてケシ飛んでしまつたといふ、或は二十年の腰辨生活によつて築き上げた數萬金が鐵扉の中深く葬られた人ありと聞く。

◆これが然も財界の除波よりと醜惡を極めたる一部の人々の手段の結果であり乍ら責任ある發明は愚か、或種の計劃の下、合名或は合資などの一夜作りの怪物が續出するといふに至りては言語道斷の行爲にして吾人の默止する能はざるものである。如何に當局が思想善導のカラ太鼓をたゝいても駄目だ、あの天にそびゆる建物を呪ふ時如何に思想の惡化をもたらすか、火を見るよりも明かではないか事每に蠢動せんとする輩の出沒する今日、思想的經濟的種々の國難襲來に會せる國家の前途は實に寒心の至りではないか。

◆我等は國家の爲め銀行業者の根本的大覺醒を望むものである、先づ重役は速かに黨籍を脫して、根强き國民的自覺にかへつて一身以て事に當る体の覺悟を有するに非んば何時の日か經濟の悲境より救濟されよう。

山登りと

徒步的人生觀

登山好樂生

現代人が生活に疲勞して居るのは、階級制度が打破せられて自由競爭が激甚となつて以來あきらめると云ふことが出來ず絕えず、慾望に追はれて行くからである之は此の儘押して行けば何處まで行つても際限ないがこれ等の疲れを癒す最も卑近な、方法として『山登り』が一番良いと思ふ、第一衞生上から云ふてもオゾーンに富んだ空氣が吸へるし、精神的にも世の慾望爭鬪といふ樣なことが如何に區々たるものであるかと云ふ浩然の氣魄が養へやすし登るにしても、一直線に頂上目がけて進むよりつゞら折の道を悠々として進む方が良い、無暗に一直線に進まうとすれば勞多くごうかすると、引くり返つたりするがつゞら折りを辿つて一步々々足を踏みしめ麓をふり返りつゝ登るさ『オ、〳〵此の處まで來たものだ』と自分の足跡を顧み得る愉快と反省が伴ふ。見た處迂廻する樣であつても却つて山登りの効が多いと云ふものである、之を人生に例へれば『徒步的人生觀』とでも云はうか徒らに、自分の慾望に追はれて、自ら急がしい思人となるよりは、此の『山登り』のコツを以て一步々々足を踏みしめ常に反省と變化を繰返して進めば生活の疲勞を忘れる事になる。

子供心にも！

日光生

『トウサン〳〵支那と日本と戰爭起きたつてほんとうカイ』

『支那人はね、日本人を鼻を切つたり、目玉を拔いたりして殺したんだつて、先生は云つたヨ、僕も支那人を殺してやりたいな』と學校から歸つて挨拶もしないで、坊やは頓狂な聲を出し、非常な憤慨の色を表はして、キチンと直立不動の姿勢をして居る。

子供心にも皇國の爲めに起たんとするではないか。此れがほんとうの日本國民の血を有する證據だ、然るに何事ぞ、國を擧げての國難に直面せる此の時、尙出兵反對の暴言を吐く政治家を出すに至りては危い哉日本、と叫ばざるを得ない。國の大事をも政爭の具に供するの愚より速かに覺めよ政黨を思ふの前先づ國家の安危を念ぜよ。

× ×

磐城講道館有段者會

に對する……希望

石城、双葉、相馬濱三郡柔道有段者を以て成る磐城講道館有段者會は創立して早や滿一ケ年となり、その後の動靜については本紙前號に報導せる如くであるが發會式當日同會に對する希望として各有志が述べたる祝辭を揭して以て自他共の警策となすものである

× ×

本日磐城講道館有段者會發會式を擧行せらるゝに方り其席末に列するを得たるは本職の洵に欣幸とする所也惟ふに体育は人の最も重んずべきものにして學術を研讚するも實業に從事するも体軀柔弱にして精力旺盛ならざれば曷ぞ萬古不滅の功業を成すを得んや之れ即ち体育に於て特に其切要なるを見る所以なり然り而して体育の道種々ありと雖も我が民族の傳統的繼承し來れる柔道は實に我國體育上の鼻祖にして且つ尊親禮讓の大義を併有し又德育をも兼備せる高崇の体育なればなり嘉納先生茲に見るあり夙に講道館を創立せられ子弟を訓練せらるゝこと多年斯道益々隆昌し海內に普ねからざるなし爰に石城雙葉相馬の三郡有段者相謀り先生の承認を得て磐城講道館有段者會の創立を見るに至る是れ獨り會員諸君の慶福なるのみならず實に地方の体育並に德育上受くる裨益甚大なるものあるべし冀くは會員各位益々技能を鍛練し德を積み以て所期の目的に邁進せられんことを聊か蕪詞を陳べて祝詞となす

昭和二年六月十二日
平町長 伏見彦衛

× ×

國家の盛衰は士氣振ふと振はざるとにあり而して之を養成するの道一にして足らずと雖も柔道の如き其最たり方今人文弱に流れ國民精神は萎靡衰退し士氣の振はざる所以のもの斯道の凋落に職由せずんばあらず之れ志士の腑を折て痛憤禁せざる所なり然るに今日を卜し磐城講道館有段者會の盛大なる發會式を見る洵に欣快に堪へざるなり希くは協力同心して斯道の精神を發揮し其の技能を修養し以て鄉士の曉鐘たらんことを

昭和二年六月十二日
帝國在鄉軍人會
平町分會長 山崎淸三

× ×

方今、上下滔々乎として奢侈奔逸に流れ、世道人心頻りに其の趨くところを謬らむとするの秋、獨り我が神州古來の武技は、嚴として民衆士氣の頹廢をふせぎ國家觀念の薰化鼓吹に努め營々寸時倦まざらむとするものあり、本日吉辰をトして我が南奥州の天地に、磐城講道館有段者會を設けられ熱血至純の傑士濟々とし和心協力、以て漸く軟弱退嬰に趨かむとする磐陽の地を風靡するに、勇猛精進の新氣魄と、雄大剛健の大精神とを以てせられむとするに至りたるは、我等の平常地方鄉黨の爲に僥望思慕に堪へざりしところ、茲に双手を擧げて欣快慶賀の意を致さむとするものなり

特に本會が、我等磐城中學校同窓出身者たる、有力なる高段者始め數十名の會員を以て其中心とせられたるに至りては我等の榮譽本懷正に此事たらずんばあらず惟ふに柔劍弓槍の道は我が祖宗相傳の武技にして、就中柔道に至りては武を練り術を競ふと雖も其求めんところは体技にあらずして心技にあり、競技に存せずして一に人格精神の鍛練確立にあり、正に我が神國大和魂の精華眞髓と稱せらるゝ亦宜なり

我等は此に本會の愈々其の本來の主張の爲に努力せられ益々世道人心の指導救濟の爲に破邪匡正の道に奮闘せられむことを偏に切望して止まず

終に本會の彌榮を祈り以て祝辭となす

昭和二年六月十二日
福島縣立磐城中學校
同窓會長 白井一郎
代理 仲里文平

雜詠

透眞生

一輪のあなは咲きけり赤々と
　病後の室に置てありけり
寶花に見とれつわれはたたづめば
　いかゞさいわれ立去りにけり
綠木のあねまに咲けるつゝじ花
　窓より我れは眺めおりけり
ほのぼのと見ゆる綠の色あさく
　あけ行く光り靜けき朝
垣根越來たりし犬は尾をふりて
　あまゆるよ朝なり春

六月十七日

植田町
森合齒科医院
本町 森合芳男

內科 外科 一般診療
片岡醫院
片岡鎌三郎
湯本町驛前

磐城 湯本
溫泉旅館
松柏館
電話五番

五月十六日より婦人世界賞讃
女優好み「夏の生活美」
表現浴衣地陳列會
五月廿六日より婦女界推奬
オールスター、キャスト好み
草の葉染中形陳列會
平町三丁目
中野呉服店
電話六十七番

平和削節製造發賣元
海陸物産問屋
常磐線湯本驛前（磐城屋號）
鈴木道太郎商店
（振替東京六二一〇一番）
◉最上の鷄餌（魚粉）

✕光線科
[illegible]醫院
平町南町 電話一二九番

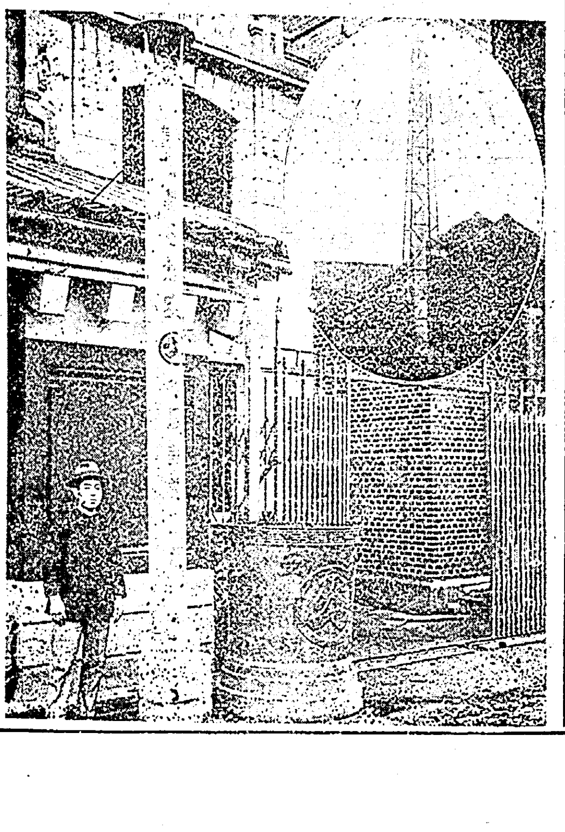
平町田町
高久病院
電話五一三番

內科小兒科皮膚科
[illegible]醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

理化學研究所製
吸入用酸素・酸素吸入器
優良ナル理研ノ酸素ノ御用意ヲ
平町四丁目
關內藥舖
藥劑師 關內榮助
電話四〇番

霜降小倉 學生服特賣
六、七才向 金一圓也
八、九才向 金一圓十錢
十才位向 金一圓貳十錢
十二才向 金一圓三十錢
十三才向 金一圓四十錢
平
なかや洋服店（電話二〇三）

サビナイ。ヤケナイ。クサラナイ
石綿セメント製
朝日煙突
耐水。耐火。美麗。廉價



和洋銅鐵金物
平町五丁目
釜屋商店
電話九番 一三九番

◎民衆本位 登記の實際
附 家庭實用法律心得
民衆法令普及會發行
四六版上製上質六百二十頁
特價金貳圓參拾錢
◎修業立志編
福澤先生著
四六版二百七十頁定價金壹圓也
◎福翁自傳
四六版五百五十頁 定價金壹圓七十錢
平町二丁目
清光堂書店
電話一三一番
振替口座東京五三八八
御注文の際は迅速に御屆け致します

不思議な滋强靈液
養命酒

本酒を用ひて適切に靈能の分る人々
養命酒は酒にして酒に非ず藥餌用として御婦人にも用ひ易く强力なる榮養素は惡疫を豫防し萬病を擊退する眞に健康の好伴侶なり榮養を貴ぶ人は勿論殊に
結核素質者○胃腸病○神經衰弱○精力減退○貧血性○不眠症○病後衰弱○婦人病ヒステリー○勉强又は激務に疲れ易き人○健康者朝夕の一杯元氣旺盛○其他慢性諸病に惱み醫藥に效なき方は論より證據先づ一瓶を試み其眞價を知り御愛飲あらん事を御薦めいたします
▼大瓶 五八〇瓦入 金貳圓
▼中瓶 四〇〇瓦入 金壹圓五拾錢
▲四季の御進物用又は病家の御見舞品として最も好適で御座います
發賣元 信州 天龍館東京支店
代理店 平町五丁目
山野邊藥局
藥劑師 山野邊東次郎
◎養蠶用寒暖計
◎農藝用消毒藥各種

磐城セメント代理店
西村屋藥舖
平町二丁目 電話長三番

日本石油株式會社特約店
營業種目
內外機械油
發動機用油
色油類各種
度量衡器
カーバイト
コールタール
石油乳劑
平町二丁目
關內油店
關內正一
電話十六番
郡山市驛前
郡山支店
電話三二八番
支店油槽所（茨城縣多賀郡關本驛前 電話平潟三十七番）

話耳目

松ケ岡公園辨天池に水を噴く龍の据付について種々非難があるがあれは富士越の龍な相で富士山を越すといふ頗る意義ある龍であると寄贈者の諸橋守次氏が説明して居る。その龍がこの頃水を噴かぬ樣であるごうしたものだらふ町役場の係りに質したい。

× ×

本紙が磐銀休業の內容につきかき初めた事に對しては筆者同銀の不始末は閉店前知悉して居つたが休業前ものする事は財界を亂す事になるが休業此の事に至つた以上不問に附すべきものでないと信じて居る、又本紙の後援者に連らなる人が同銀重役なるが故に『なぜかかぬ』等と恐迫めいた投書をなすものあり何もそんな恐迫を齒牙にかける理でない、然し案ずるに世の貯蓄心、勤勞の風はごうであらふ、同銀休業のため小學兒童までに無駄なる事を思はしめ、不正をやつても贅澤三昧しても世の中はゴマかし行けるものであるとの思ひを靑少年に考いさする事は第二國民養成上重且つ大なる問題であるを忘れてはならぬ此の見地から斷々平として破邪匡正の爲公憤の筆硯を進めつゝあるものである、筆者は磐銀、平銀兩行共に恩怨がない啻多數領金者民衆の正論を代辯する迄である

× ×

巷間噂さするに本紙が磐銀をものする事は平銀の差し金なりとの憶測をなすものありとか筆者甚だ迷惑の至りである、事實は事實、是は是、非は非として報道するものである、時に該記事の報道を見合さしむべく策動する釜屋の態度が不思議でならない、新聞記者が筆を採るに當りてや輕々しくなすものでなく、其處に太なる決意と目的がある又同業山田盤磨氏が、楽制的の策動をなす事は筆者としての立場を考慮せぬも甚だしいと申さねばならぬ追從事とするのみが吾人の使命ではない

× ×

政府では銀行合同々々と氣をやいて居るが何が故に認可したのであらふ、認可して置いて今更合同等と騒ぐから其處に無理が出來るもの、政黨不信認、銀行不信認、國民思想、生活の安定はごこまでも深刻になつて來る。

× ×

聖上陛下が田植を遊ばされるとも承はる、畏れ多い事であり有難い事である、其處等の地主連いやサ米を常食とする吾人人間は一株でも植ゑて農民の勞苦米がごうして出來る位は心得ておくでき事である

× ×

釜屋商店では當主久太郎翁夫妻の老後を安んずべく孝道の見地から隱居を新築中であるそして庭に欅樹二人ダキ位のを移植し立派に芽がふいて居るそこで平、內郷、飯野の惡水豫防工事につき平町の分のみ起工せず居るがそれは櫻樹の移植が問題とかオカシな事ではある

× ×

財界安定促進會とか在平旬刊ワンダース社を以つて成るのに本社が參加せぬ理由は本紙前號紙上に説明して居つた、今更、磐城經濟新報といふのに吹聽の勞を採つて貰はなくとも同會の出した聲明書に依つて世人衆知の筈御町嚀に御苦勞な事ではある

× ×

別項記載の如くであるが休業磐城銀行が整理に際して債權讓渡は合法とするも、不對等額の相殺は不當である、整理の上は預金者一同に五分なら五分として拂戻すべきでいつも弱き預金者は下敷とならねばならぬ、警戒せよ一般預金者！今回の磐銀休業は預金者にも責あり等と暴論を吐き居るものがある、かくの如き曲論をなすものは社會制度を破壞するもの、權利を主張をしてならぬと云ふ事があるか、預金を下げて何處が惡いのだ、預金を下げられて休業せねばならぬ銀行は既に不當不正の事あるからだ、磐銀休業は寧ろ債務者にあつて預金者にあるべき事にあらず、同銀休業は歸して當事者に在るのだ、要するに整理は誠意を以つてなすべし公平たるべし平銀と合同せば財界安定すると思ふのか、合同等と屈辱的行動に出でず正々堂々男らしく整理に當り可憐なる預金者を一日も早く救ふが人間味あり同銀卿等再生の活路を開くと云ふべきである。

金融剖見

整理の結果はどうなる

不良貸付、不當の相殺

休業磐城銀行の內容（二）

又字平三丁目四十四番一十五番一三十番の宅地は生前に於ては磐城銀行の柱石にして白井博之氏の懐刀と呼ばれた故

横内直溫　氏の所有にして大正八年十二月中直溫氏死亡するや磐城銀行に對する借財の爲め該宅地を磐城銀行に提供せるものであるから其所有權は當然株式會社磐城銀行にある筈なるに之れが磐城銀行の所有とならず一行員である植田庭躬の所有となり居るは如何なる譯合であらふか

植田庭躬　は昭和二年九月廿六日磐城銀行より金五萬圓を借受けたがその借受に際し磐城銀行支配人草野順平氏は自己所有である平町字搔槌小路十四番四宅地八十一坪（元タドン會社の跡）字材木町四十一番宅地百二十一坪同字四十二番イ宅地九十六坪字搔槌小路四十九番一宅地九十八坪一合同字十六番宅地三十六四坪七合五勺同字四十八番四宅地七十四坪四合を

擔保に供　さしめてあるが前記搔槌小路宅地は總坪數二百九十坪二合五勺にして坪六十圓の賣買價格として金一萬七千四百十五圓字材木町邊は良い處で坪四十圓位の賣買相場の由なれば前記材木町の宅地は總坪數二百十六坪にして坪四十圓として金八千六百四十圓合計金二萬六千五十五圓之れ即ち現時平町に於ける賣買價格である此の價格か有せざる宅地に對し如何に行員植田庭躬の借受で支配人

草野順平　氏所有地を擔保に供したとは云ひ條五萬圓即ち賣買相場より二萬三千九百四十五圓多く貸付た事は如何にしても不當貸付である事は否定し得ざるものであるまいか、而して磐城銀行は前記抵當債權と外に

新妻兼吉　が磐城銀行に擔保とせる石城郡夏井村大字下大越字岸前十二番田七畝十歩外田十九筆畑十五筆の抵當債權とを併せ擔保として昭和二年十月十三日日本銀行より金十七萬圓を借受けたのである次に磐城銀行は故

大里兼次郎　氏所有の字搔槌小路一番宅地百九十三坪三合同宅地內建物三棟の根抵當權を設定せしめ大正六年二月二十八日金二千五百圓大正七年五月七日金一千圓大正十年九月二十一日金五千圓大正十四年八月五日金三千圓合計金壹萬壹千五百圓を大里兼次郎氏に貸與せる債權を昭和三年六月十二日石城郡神谷村大字鹽字德手內七十四番地佐藤藤助氏に讓渡したのである確聞する處に依れば右、

佐藤藤助　氏は磐城銀行に五千圓と一千圓との二口の預金を有する爲め此の六千圓の預金と相殺の意味に於て磐城銀行では前記大里氏の債權を讓渡したものであるとの由であるが之れ果して然りとせば休業整理中と稱する磐城銀行が如何なる必要に迫られて斯く一萬一千圓の債權を讓渡したか又

預金と相殺　するならば何故對等額に於て相殺をしないのであらふか、前記大里氏の宅地は百九十三坪三合なれば宅地のみにて坪六十圓として一萬一千五百九十八圓の賣買價格を有するものにして之れに斯く擴大なる建家三棟を有するものを六千圓の預金と相殺の意味にて讓渡したものとするならばこは甚だ

奇怪至極　なりと言はざるを得ないのである叙上の如く行員に金を貸付くるには賣買價格以上に貸與し銀行が個人との間に於て相殺を爲す場合は六千圓の預金に對し一萬一千五百圓の債權を以てするは之れ決して妥當の行爲と見るを得ないのである。

色か魔か

拾年間弄ばれた

モンペイ中年增が

私生子認知訴訟を起す迄の

淚ぐましい話（一）

平町は南町古い料亭として知られて居る大和家拾四番に女中奉公して居る藤野キイが拾年の貞操を踏みにじられたといふともこんがらがつた物語りがある、キイは秋田縣雄勝郡の生れである、そして世間並みにある處へ嫁いだ、然し緣なくして實家歸りをして居つたキイのある親戚にて宿屋をして居つた、キイは時過同宿屋へ手傳に行つて居つたその折東京軍馬補充部の一行が同地の軍馬『秋田方面では馬市場を軍馬といふ』に馬買ひ上げに來た、その一行のうちに若き將校が加つて居つた、その將校は××××と言ひキイの田舍に應はしい小奇麗なモンペィ美人をみて猿心制し切れず、甘言を以つてキイをものにした……そうするうち時は過ぎた……××は軍隊生活を止め內郷村に退きて材木商を營む事になつた。この間、キイを呼びよせて新藤支店や其他で合引を續けて居つた、追々××の妻〇〇子等の知る所となりキイは××の妻女のハカライで城山に間借をする事となり、その仕送りは白面稻荷の靑木ツル『〇〇』からみつがれて居つた、勿論その仕送りは××よりツルへそれからキイと行くので思ふ存分の仕送りではなかつた、斷つて置くがキイにはこの折××との仲に出來た乳吞子があつたのである、するうちツルは××の妻の差し金であらふ、キイを他へ嫁に世話せようとし、キイの諾せざるに際しては日本刀等で恐迫せる事もあつたと言ふ事である、キイは終にあきらめて××を見限ぎる決心をなして女中奉公でもして乳吞兒を育て上げ樣と乳兒は才槌小路の大內某にあづける事になつた、そして料亭玉よしに一時女中手傳をなす事になつたその前に鐘突堂守市川長作夫妻はキイが間借り生活中面倒を見てやつた、キイが嫁に行かず女中になつたので白面稻荷ツルは市川堂守がキイとグルになつてペテンにかけたとして堂守に食つてかゝつた、堂守に迷惑をかけてはとこれからキイが憤激して兒を負ふて內郷村××宅に乘込む……堂守が後を追ふ乳母の大內妻女が又追ひかける、キイが自殺の決意、その間、冷酷な巡査、親切なる警官、自動車の運轉手、同乘の藝妓、證人として學生又は辯護士安藤琢磨氏、平署內にてキイと××との對決……目下キイは私生子認知の訴訟を起すべくその手續き中とか生きた芝居をみるにはあまりに淚ぐましく色魔の處置には言語につきて居るが去五月五日晩より六日にかけての場面は活悲劇そのまゝ詳細は號を逐ふて。

官海動靜　（六月一日付）（十九）

海軍更迭

命呂第廿一潜水艦乘組　海軍中尉　宮本　進20

命衣笠乘組　海軍少尉　小野四郎23

命術科講習員　少尉候補生　鈴木　莊24

山形縣寒河江中學校敎諭　大川康介

奏任官待遇高等官七等

神奈川縣厚木中學校長　園田　淸

高等官四等

◆右二名は舊磐中敎諭である

二級俸　新發田中學校敎諭　小野大造15

御免　平相撲　東西……東西

東西々々此處に呼び上げますは平男性肉体美の持主！

行司　『白』加藤丈夫　二一、〇

中學　橋本芳太郎　二〇、〇

五　諸橋守次　一九、〇

三　中野康平　一八、〇

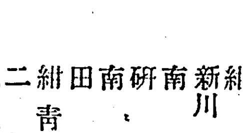
東

横綱	大町	若松信吾	二五、〇
大關	四	三井富吉	二三、〇
關脇	田	合津重世	二三、〇
小結	才	江口忠一	二三、〇
前頭	鎌	根本千代吉	二三、〇
	二	鈴木寅太郎	二三、〇
	才	門傳淸吾	二三、〇
	南	上田耕作	二三、〇
	南	淸野彦四郎	二三、〇
	南	齋藤寅吉	二三、〇
	二	江島屋	二三、〇
	田	久本	二三、〇
	田	松本定藏	二三、〇
	古	灘川	二三、〇
	仲	山田文一	二三、〇
	一	奥山成藏	二三、〇
	鎌	阿部治作	二三、〇
	鍛	高根澤長太郎	二二、〇
	五	山野邊東次郎	二二、〇
	二	三福亭	二一、〇
	才	新田目春松	二〇、〇
	長	小野里吉	二〇、〇
	研	鈴木亮	二〇、〇
	白	佐藤淸六	二〇、〇
	五	諸橋元三郎	二〇、〇
	材	草野順平	一九、〇
	才	前澤文太郎	一九、〇
	堂	瀧澤俊平	一九、〇
	三	柏原幸次郎	一九、〇
	新	渡邊又吉	一九、〇
	一	鷹崎貞衛	一九、〇
	二	三春屋	一九、〇
	白	梅澤	一九、〇
	田	千鳥	一九、〇
	三	丸本	一八、〇
	南	青木秀治	一八、〇
	田	佐藤久吾	一八、〇
	田	千葉彦治	一八、〇
	南	田口平藏	一八、〇

西

横綱	鍛	中野甲藏	二四、〇
大關	田	酒井淸	二三、〇
關脇	紺	草野伊佐吉	二三、〇
小結	田	猪狩六平	二三、〇
前頭	南	大森勇	二三、〇
	新	渡邊秀之助	二三、〇
	鍛	吉田友一郎	二三、〇
	材	栗木千代吉	二三、〇
	二	富田茂八	二三、〇
	白	淸水廣政	二三、〇
	四間	佐々木龍若	二二、〇
	堤	深谷長吉	二〇、〇
	仝	梅本梅吉	二〇、〇
	古	永山富廣	一九、〇
	新	正月屋	一九、〇
	田	野崎滿藏	一九、〇
	田	鈴木重助	一九、〇
	五	井上貞治郎	一九、〇
	新	丹野	一九、〇
	大工	上野鐵之助	一九、〇
	田	石坂一男	一九、〇
	鎌	松永	一九、〇
	大工	一心堂	一九、〇
	大工	酒井良助	一九、〇
	二	鈴木民治	一九、〇
	鍛	吉田伴吉	一九、〇
	紺	大川屋	一九、〇
	新川	松崎	一九、〇
	南	鈴木長三郎	一九、〇
	研	佐藤芳松	一九、〇
	南	石川俊	一九、〇
	田	伊藤一	一九、〇
	紺	青天目源一郎	一九、〇
	二	伊關爲助	一九、〇
	五	佐々木榮次郎	一九、〇
	鍛	鈴木淸太郎	一八、〇
	四	關內榮助	一八、〇
	材	石山治三郎	一八、〇
	二	谷口仁太郎	一八、〇
	田	三二三屋	一八、〇

◆メートルを上げては『何だね惡かつたら七十四番へ連れ行きなよ』等するごく當り散らしタンカを切る竹の家のお鯉丁度節の者じやないでせうが時折街路で乙なシーンを見せて居る去る十七日の夕も西村藥舖橫丁で好間古河の六尺男の腰にぶらさがつてねい行きませうよテバ〇〇〇〇



◆玉川初代の政榮さん暫らく竹本の女中として同女將の別莊住居中留守をなして居つたが、此の頃古巢から●小●さんとして二度の褄取これも浮世でオマスかいな定めしサの字、オの字に火がつきはせぬかと今のうち水を用意して居る人がある何に水じやなく風を呼んで吹きかけるのだらふテ。

◆竹の家からは花●蝶●と名乘る新妓が出た、前任地は磯濱芳紀正に盛りの二十一才

祝平新報之發展

平銀行頭取　山崎與三郎

福島縣農工銀行平支店長　河西八十治

平藝妓屋組合

平料理屋組合

平三業保險合組

平町三丁目　有限責任　平町信用合組

平町二丁目裏通り　小松崎洗張店　電話七百七十番

平二丁目　御料理　初音　電話二百三十六番

平町三丁目　大黑屋商店　電話百拾六番

玉川村野田　丹野鷲之助

◆新築落成　荒川藥舖　四ッ倉町電話百二十番

內郷村　村會議員　高原重吉

植田藝妓屋合組

四ツ倉電氣株式會社　社長　新妻盛

平産婆看護婦學校長　淸野キヨ　平南町　電話三百七番

平町四丁目　荒物商　伊勢屋　電話四十五番

平町四丁目　鮮魚商　宍戸屋　電話二百十五番

平町　河田商店　河田梅吉

東部電力株式會社　平營業所　武田精一

福島縣會議員　山崎吉平　飯野村

植田町　赤津島治

中之作鐵工所　吉田正雄

小名濱漁業組合長　立花雄七

山田村長　安島重三郎

磐城海岸軌道株式會社　支配人　丹野寛平

平町六丁目『丸久材木店跡』　木村外科醫院　院長　木村淳　◆入院自炊の便あり

平町三丁目　質商　和田禎宗　電話三百九番

磐城水産工業株式會社　社長　小野晋平

小名濱町　大野眞宏

植田町收入役　高木五郎

植田町　片岡醫院　慈惠醫學士　片岡章　電話一〇七番